

新型コロナウイルス感染症蔓延から1年後の大学体育の開講状況
：九州地区国立教員養成大学・学部の分析結果からの第二報

山津 幸司（佐賀大学教育学部）

**Availabilities of university physical education courses one year after the spread of the
COVID-19: Second report from analyses of coursework syllabi in faculties of educations in
national universities in Kyushu**

Koji Yamatsu (Faculty of Education, Saga University)

(Received June 14th, 2021 ; accepted for publication August 19th, 2021)

要旨

新型コロナウイルス感染症の蔓延は我が国では2020年にはじまり2021年6月現在も1年以上続き国民生活に大きな影響を与えている。大学教育は2020年度の新型コロナウイルス感染症への対応や日本国政府の緊急事態宣言の発出により混乱の中で試行錯誤を繰り返しているが、多くの大学がオンラインのよる遠隔教育を導入し対応に努めてきた。大学教育の中でも特に大学体育は、実技・実習系の科目を多く開講しており、2020年度前期開講では三密対策と熱中症対策のバランスを保つ必要があり、開講時期を遅らせたり、対面実技を中止するなどの苦肉の対応策がとられた。著者は九州地区の国立教員養成大学・学部で2020年度前期に開講されているシラバス等を調査し、大学体育に対する新型コロナウイルス感染症蔓延の短期の影響を報告した。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延が大学体育の開講に与える長期の影響は明らかにされていない。そこで、本研究では、九州地区の国立教員養成大学・学部が開講している2021年度の大学体育のシラバス等を調査し、新型コロナウイルス感染症の長期の影響を明らかにすることとした。その結果、2021年度においてはコロナ禍でも大学体育は前期開講を遅延させることなく、多くの大学で対面授業が工夫され実施されていること、また2021年5月に日本国政府による3度目の緊急事態宣言で福岡県と沖縄県が対象地区となったが、2020年度ほど混乱することなく、長期におよぶコロナ禍においても各大学は様々な工夫で対応できていることが示された。

Key words: COVID-19, 保健体育科, シラバス分析, 小学校体育, 水泳, 教養体育

1. 研究の背景と目的

我が国における新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナ）の蔓延は2020年にはじまったが2021年6月現在も1年以上続いている。2021年5月には日本国政府の3度目の緊急事態宣言が发出され、九州地区では福岡県と沖縄県がその対象地区となり、熊本県がまん延防止等重点措置の対象地区となっている。新型コロナの蔓延は今でも国民生活に大きな影響を与え続けている。

大学教育も新型コロナ蔓延の影響を受け続けている。特に大学における体育教育（以下、大学体育）は実技・実習の形態で開催されることが多く、遠隔授業で代替しやすい他教科の授業に比べて影響を受けやすいと考えられている。全国大学体育連合の調査（全国大学体育連合、2020）によると、大学体育の中でも教養教育として開講されている体育実技の授業実施は、1) 回答した48大学の多くが体育実技の2020年度前期の開始を遅らせたこと、2) 15校（31.3%）はオンラインの遠隔授業ではじめその後可能になれば対面授業に移行する計画であること、3) 6校（12.5%）は対面での体育実技を開講しないこと、4) 体育実技を予定通り実施と回答したのは1校のみであった。また著者による報告（山津、2020）によると、1) 九州地区国立教員養成大学区・学部8校のうち7校（87.5%）が2020年度前期授業の開始を遅らせ、2) 実技授業の対面による実施を前期の全期間不可としたのが1校、5月下旬・末まで不可としたのが2校、6月中旬まで不可2校、6月末まで不可としたのが1校であった。以上の二つの報告をみても、2020年度における国内における新型コロナの大学体育に対する影響は小さくなかったことが伺える。

新型コロナの蔓延は現時点で1年以上続いているが、新型コロナの大学体育への長期的な影響を検討した研究は少ない。そこで、本研究の目的は、九州地区の国立教員養成大学・学部における

大学体育の2021年度開講状況を調査し、2020年度（山津, 2020）と比較することで大学体育に対する新型コロナ蔓延の長期の影響を明らかにすることであった。

II. 研究方法

2-1. 研究対象

研究対象は、教員養成課程にて小学校教員免許、中学校及び高等学校の保健体育科教員免許のいずれかを卒業要件として取得が義務づけられている九州地区の国立大学8校（福岡教育大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）における小学校体育、水泳、教養体育のシラバス等であった。

2-2. 研究データの収集方法

解析対象のシラバスは2021年6月4日時点で各大学のホームページから入手した。シラバス内に新型コロナ対応の情報がない場合は、各大学の新型コロナ関連のホームページを参照した。分析に用いた全授業の名称や担当者等の情報を巻末（付録）に示した。

III. 結果

3-1. 対象大学における2021年度前期の新型コロナ対応状況（表1）

分析対象となった全8大学のうち政府の緊急事態宣言が発出された地域に位置する大学は2校（福岡教育大学、琉球大学）、まん延防止等重点措置が発出された地域に位置する大学は1校（熊本大学）、県独自の緊急事態宣言が5月に発出された地域に位置する大学は2校（長崎大学、宮崎大学）で

あった。一方、全8大学が前期授業の開始日を遅らせることなく進めることができていた。

コロナ禍にもかかわらず6月1日時点で対面授業が実施されていたのは7校（87.5%）であり、そのうち6校（75.0%）が感染予防の確保や部局長の許可を前提に対面授業を認めていた。原則オンラインによる遠隔授業の実施としていたのは2校（25.0%）であり、原則対面授業としていたのは1校のみ（12.5%）であった。唯一対面授業を実施していなかった長崎大学は5月24日から対面授業を開始するとしていた。

キャンパスへの立入りを全部または一部可能としていたのは7校（87.5%）であり、記載なしは1校のみであった。

課外活動については、禁止（自粛も含む）としているのが6校（75.0%）であり、大学指定の条件クリアで可とするのが1校（宮崎大学）、4月8日以降解禁が1校のみ（鹿児島大学）であった。

3-2. 小学校体育の開講状況（表2）

小学校体育のシラバスは全8大学で見つけることができた。そのうち、7科目（87.5%）では対面による実技を中心としていたが、オンライン授業の利用が2科目（25.0%）であった。熊本大学の「体育科教育A組」のみ講義の授業形態としていた。担当教員の代表は全員が専任教員であり、複数教員が担当するオムニバスでの開講は5科目、開講学期は前期が6科目、後期が2科目であった。開講学年は2年生の4科目が最多であり、1年生が1科目、3年生が1科目、記載なしが1科目であった。今回新たに注目した受講人数制限の記載は3科目で認められた。具体的に記載のあった福岡教育大学では30人以下、鹿児島大学では20人以下、としていた。

3-3. 水泳の開講状況（表3）

水泳のシラバスが見つかったのは8大学8科目であった。8科目の担当者全員が専任教員（100%）であり、4科目（50.0%）が前期の集中授業であった。開講学年は1年生と2年生がそれぞれ3科目（37.5%）と最多であり、3年生は1科目（12.5%）、記載なしは1科目であった。オンライン授業利用の記載があった科目は一つもなかった。水泳は、新型コロナの水感染や水中感染を想定しなければならないが、水泳に特化した新型コロナ対策をシラバスの中で記載している科目は皆無であった。

3-4. 教養体育の開講状況（表4）

全8大学で当該科目のシラバスを見つけることができた。8科目中7科目（87.5%）が対面実技を中心とする内容であったが、オンラインでの遠隔授業を併用しているのは2科目（福岡教育大学、鹿児島大学）であった。1科目（熊本大学）は講義形式でオンライン授業のみでの実施であった。開講学期はすべて4月からの前期（クォーター制の春学期含む）のシラバスであった（後期も同様の科目が開講されるものと思われる）。授業回数は表に掲載してはいないが、全15回1単位の認定が7科目、クォーター制で全8回1単位が1科目（熊本大学）であった。開講学年は1年生が5科目と最多であり、2年生が1科目、記載なしが1科目であった。

IV. 考察

4-1. 各大学の新型コロナ対策に対する考察

本研究では、九州地区の国立教員養成大学・学部8校の2021年度のホームページやオンライン・シラバスを調査し、コロナ禍における各大学の大学体育の開講状況を2020年度と比較し考察を行うこととした。その結果、2021年度の開講科目についても新型コロナの影響は受けているが、2020年度とは以下のような違いが認められた。

- 1) 2021年度の対象校8校では前期授業の開始が遅れた大学は一つもなく、2020年度の7校が当初の予定より前期授業の開始が遅れたのとは対照的であった。
- 2) 2021年度は対面授業を積極的に許可する大学が7校と多かったが、2020年度の5月末から6月中旬まで原則遠隔授業とする大学が7校（うち1校は前期中不可）であった。

一方、2021年度と2020年度の大学体育の開講科目には以下のような共通点も認められた。

- 1) 対面授業の実施に際し、検温等の体調・健康チェックの徹底、マスク着用や教室入室前のアルコール消毒などは徹底されていた
- 2) 大学体育の実技を想定した新型コロナ対策の具体的記述はほとんどみられなかった

以上より、新型コロナの蔓延は九州地区の国立教員養成大学・学部における大学体育の開講に影響し続けているが、各大学は新型コロナの蔓延に対し上手く対応していることが示された。

4-2. 小学校体育の開講状況に対する考察

小学校体育のシラバスが認められたのは8校であった。1年前の2020年度には未開講としていた大学があったことを考えると、新型コロナ対策に上手く対応できている様子が伺える。また、1クラスあたりの受講人数を制限している科目も3つ存在しており、新型コロナに上手く対応しながら実

技科目の効果を高めようとする意図が伺えた。小学校体育は多くの大学で実技を中心としており、複数の種目や水泳等も含まれる場合があるため、担当教員は現時点でも苦心されていると推察される。福岡教育大学ではオンライン授業との併用が、熊本大学ではオンラインによる講義形態での実施のみとされていた。小学校体育は小学校教員志望者の体育実技力を高める貴重な科目であるが、コロナ過では三密対策と共存させながらより一層の工夫が求められる。また、小学校体育を対象としたものではないが、中学と高等学校保健体育科教員免許必修科目の「体づくり運動」で対面実技とオンライン授業の併用により教育効果を高めることを試みた報告（高木ほか，2020）もあり、今後このような報告をまとめノウハウを集約化する取組が必要になると思われた。

4-3. 水泳の開講状況に対する考察

2021年度のシラバスが見つかったのは8大学の8科目であった。2021年度の水泳は全8大学で開講されており、2020年度の5大学のみの実施から増加傾向となった。2021年度に水泳の開講が増えた真の理由はわからないが、科目担当者の代表が全て専任教員であり機動的な変更・対応が可能であること、夏季休暇中に集中的に開講される科目が半数であり授業の時間的融通が高かったことが理由の一つではないかと考えられた。

また、水泳に特化した新型コロナ対応は明らかになっていない点も多いが、学校体育における水泳に対する通達がスポーツ庁（2020、2021a、2021b）から三つ出ており、日本水泳連盟（2020）が公表している水泳実施の際のガイドラインも出されている。特にスポーツ庁の「コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料」（スポーツ庁，2021a）では水泳も含めた他種目実技の新型コ

コロナ対策が動画で紹介されており、大学体育や小中高等学校の体育・保健体育場面でも有効に活用可能である。公表された様々なガイドライン等を総合的に解釈すると、水泳の授業時において適切に管理されたプールの水中内では人と人の距離を適切にとれば新型コロナの感染につながる可能性は高くないが、プールから上がったのプールサイドでの説明時や、着替えの際の更衣室での感染対策が重要になると思われた。

4-4. 教養体育の開講状況に対する考察

8大学の全てでシラバスを見つけることができた。オンラインによる遠隔授業を併用していたのは2校（福岡教育大学、鹿児島大学）であった。遠隔授業を活用した体育実技を模索しているとの報告（門利ほか，2021）もあり、今後このような各大学でのノウハウを集約する必要がある。本研究の結果からわかるように、教養体育は入学直後の新生を対象とする大学が5校と多い。特に大学新生は学校や生活環境の大きな変化を経験するため不安になりやすいと思われる。例えば、九州地区の公立大学の報告（中原ほか，2021）では、コロナ禍の緊急事態宣言の発出により新生の身体活動量の低下や心理面の悪化傾向が認められるとのことであった。新型コロナの蔓延が大学生のメンタルヘルスに悪影響を及ぼしている可能性を指摘するレビュー（梶谷ほか，2021）も報告されており、新たな生活がはじまり不安等を抱え込みやすい新生だけでなく他学年の学部生や大学院生へのケアやサポートも必要になると思われた。

V. 結論

本研究では、九州地区国立教員養成大学・学部における大学体育の開講状況が新型コロナの蔓延から1年経過後にどのような実態にあるのか、さらには新型コロナの長期の影響を明らかにすることとした。その結果、対象となった大学や授業担当者はコロナ禍においても大学体育の前期開講を遅延させることなく、可能な範囲で対面授業を増やそうと工夫されている様子が伺えた。2020年度前期では開講時期が数週間から1カ月ほど遅れたことや、対面授業を禁止する大学が多かったことは対照的であった。実技や実習を中心とすることの多い大学体育は対面授業での実施により大きな学習効果が期待できる。そのため、安全かつ効果的・効率的に大学体育を実施するための様々な工夫やノウハウの蓄積が不可欠である。今後、新規感染症や災害にも影響を受けにくい大学体育の実施能力を構築していく必要があると思われる。

VI. 引用文献

- 梶谷康介, 土本利架子, 佐藤武 (2021), 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響: 文献および臨床経験からの考察, 健康科学, 43 巻, 1-13.
- 門利知美, 文谷知明, 宮川健 (2021), 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 対策のために遠隔授業を活用した体育実技系必修科目の模索; 受講学生を対象としたアンケート調査結果 (第1報), 川崎医療福祉学会誌, 30 巻 2 号, 631-644.
- 中原雄一, 池田孝博 (2021), コロナ禍における緊急事態宣言下の大学新入生の身体活動状況と精神的健康, 福岡県立大学人間社会学部紀要, 29 巻 2 号, 115-122.

日本水泳連盟 (2020), 水泳活動における COVID-19 対策の留意点について,

<https://swim.or.jp/fwp/wp->

<content/uploads/2021/02/1592301892-%E6%B0%B4%E6%B3%B3%E6%B4%BB%E5%8B%95%E3%81%A7%E>

<3%81%AECOVID-19%E5%AF%BE%E7%AD%96%E3%81%AE%E7%95%99%E6%84%8F%E7%82%B90616.pdf>

[2021年6月4日アクセス]

スポーツ庁 (2020), 今年度における学校の水泳授業の取扱いについて,

https://www.mext.go.jp/sports/content/20200522-spt_sseisaku01-000007434-1.pdf [2021年6月4日

アクセス]

スポーツ庁 (2021a), コロナ禍における体育、保健体育の教師用指導資料,

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/jsa_00001.htm#22[2021年6

月4日アクセス]

スポーツ庁 (2021b), 学校の水泳授業における感染症対策について,

https://www.mext.go.jp/sports/content/20210414-spt_sseisaku02-000014205_1.pdf[2021年

6月4日アクセス]

高木由起子、渋谷聡 (2020), 新型コロナウイルス感染症拡大における体育実技系授業の取り組み

と今後の可能性の検討, 星槎大学紀要共生科学研究, 16号, 82-92.

山津幸司 (2020), 新型コロナウイルス感染症蔓延初期の大学体育の開講状況 : 九州地区国立

教員養成大学・学部開講授業の分析結果からの考察, 九州地区国立大学教育系・文系研究論

文集, 7巻1号, No.2, 1-18.

全国大学体育連合 (2020), 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う授業実施に関する緊急アンケート

ト, http://daitairen.or.jp/2013/wp-content/uploads/corona_question_20200419.pdf [2021年6月4日

アクセス]

表1. 各大学における2021年度前期の新型コロナ対応

NO.	大学名	最新更新日	対面授業	キャンパス立入	課外活動	その他
1	福岡教育大学	5月31日	感染予防対策がとれる場合は可	真に必要な場合のみ可	緊急事態宣言期間中は自粛	日本国政府が福岡県を対象に6月20日まで緊急事態宣言発令
2	佐賀大学	4月27日	感染予防対策がとれる場合は可	授業等必要な場合のみ可	全面禁止	
3	長崎大学	5月12日	5月24日から開始	感染予防対策がとれる場合は可	禁止	長崎県が5月8日に長崎市を対象とした県独自の「緊急事態宣言」を発令
4	熊本大学	5月14日	遠隔が基本、各学部等が必要と判断した場合は可	特別な記載はなし、図書館は利用可	全面禁止 (オンラインでの活動は可)	熊本市に「まん延防止等重点措置」が適用
5	大分大学	5月18日	原則禁止、対面が不可欠な場合は別途考慮	(記載なし)	全面禁止	
6	宮崎大学	5月31日	原則対面授業	可能	大学指定の条件クリアで可	県独自の緊急事態宣言は5月31日で終了、6月1日からレベル3の「感染拡大緊急警報」に移行
7	鹿児島大学	5月20日	感染防止対策を徹底し実験・実習・実技や初年次教育を優先して実施	可能	4月8日から自粛解除	
8	琉球大学	5月23日	部局長の許可と安全確保できれば可	可能	6月20日まで休止	5月23日～6月20日まで緊急事態宣言発令

表2. 小学校体育の2021年度開講状況

NO.	大学名	教科名	専任or非常勤	オムニバス	他開講 [#]	開講学期	開講学年	オンライン授業の利用	履修の人数制限
1	福岡教育大学	小専体育	専任	なし	あり	前期	2年	あり	30人以下
2	佐賀大学	小学体育I	専任、非常勤	あり	なし	前期	1年	なし	なし
3	長崎大学	小学校体育科	専任	あり	なし	後期	2年	なし	なし
4	熊本大学	体育科教育A組	専任	あり	あり	後期	2年	なし	なし
5	大分大学	体育(小)	専任	あり	なし	前期	1年	なし	なし
6	宮崎大学	体育	専任	あり	なし	前期	2年	あり	なし
7	鹿児島大学	小学校体育A	専任	なし	あり	前期	3年	なし	20人以下
8	琉球大学	体育1組	専任	なし	あり	前期	(未記入)	なし	あり (数値無)

「他開講」とは同じ名称の科目が他に何科目開講されているかを示す。

表3. 水泳の2021年度開講状況

N0.	大学名	教科名	専任or非常勤	開講学期	開講学年	オンライン授業の利用	履修の人数制限
1	福岡教育大学	水泳	専任	前期	1年	なし	なし
2	佐賀大学	水泳	専任	前期	1年	なし	なし
3	長崎大学	水泳	専任	前期集中	2年	なし	なし
4	熊本大学	水泳 I	専任	前期集中	2年	なし	なし
5	大分大学	体育実技Ⅲ（水泳）	専任	（記載無）	2年	なし	なし
6	宮崎大学	体育実技ⅠⅠ（水泳を含む。）	専任	前期集中	1年	なし	なし
7	鹿児島大学	水泳Ⅰ	専任	前期集中	3年	なし	なし
8	琉球大学	水泳演習	専任	前期	（記載無）	なし	なし

表4. 教養体育の2021年度開講状況

N0.	大学名	教科名	専任or非常勤	他開講 [#]	開講学期	開講学年	オンライン授業の利用	履修の人数制限
1	福岡教育大学	健康・スポーツ科学実習Ⅰ	専任	あり	前期	1年	あり	なし
2	佐賀大学	体育実技Ⅰ	専任	あり	前期	1年	なし	なし
3	長崎大学	スポーツ演習	専任	あり	前期	1年	なし	なし
4	熊本大学	体育・スポーツ科学a	専任	あり	前期	1年	あり	なし
5	大分大学	生涯スポーツⅠ	専任	あり	前期	2年	なし	なし
6	宮崎大学	スポーツ科学ⅠE(1)	専任	あり	前期	1年	なし	なし
7	鹿児島大学	体育・健康科学実習	（不明）	（不明）	前期	（不明）	あり	なし
8	琉球大学	運動・スポーツ科学演習	専任	あり	前期	（不明）	なし	なし

「他開講」とは同じ名称の科目が他に何科目開講されているかを示す。

付録

本研究で分析対象としたシラバスの記載内容は開講大学、開講科目名、開講学期、担当者名の順に記載

(小学校体育実技科目)

1. 福岡教育大学, 小専体育, 前期, 清水知恵
2. 佐賀大学, 小学体育 I, 前期, 山津幸司・堤公一・八嶋文雄
3. 長崎大学, 小学校体育科, 後期, 峰松和夫・野田章子・高橋浩二・久保田もか・中村一也
4. 熊本大学, 体育科教育 A 組, 後期, 坂下玲子・井福裕俊・大石康晴・坂本将基
5. 大分大学, 体育(小), 前期, 谷口勇一・田端真弓
6. 宮崎大学, 体育, 前期, 宇土昌志・塩瀬圭佑
7. 鹿児島大学, 小学校体育 A, 前期, 森井亮和
8. 琉球大学, 体育 1 組, 前期, 増澤拓也

(水泳実技科目)

1. 福岡教育大学, 水泳, 前期, 兄井彰
2. 佐賀大学, 水泳, 前期, 山津幸司
3. 長崎大学, 水泳, 前期集中, 高橋浩二・久保田もか・中村一也
4. 熊本大学, 水泳 I, 前期集中, 大石康晴・坂下玲子・井福裕俊・坂本将基
5. 大分大学, 体育実技Ⅲ (水泳), 開講学期記載なし, 谷口勇一
6. 宮崎大学, 体育実技Ⅱ (水泳を含む。), 前期, 塩瀬圭佑
7. 鹿児島大学, 水泳 I, 前期集中, 興儀幸朝
8. 琉球大学, 水泳演習, 前期, 遠藤洋志

(教養体育科目)

1. 福岡教育大学, 健康・スポーツ科学実習 I, 前期, 鈴木康信
2. 佐賀大学, 体育実技 I, 前期, 山津幸司・井上伸一・町田正直
3. 長崎大学, スポーツ演習, 前期, 高橋浩二
4. 熊本大学, 体育・スポーツ科学 a, 前期, 坂本将基・坂下玲子・大石康晴
5. 大分大学, 生涯スポーツ I, 前期, 岡内優明
6. 宮崎大学, スポーツ科学 I E(1), 前期, 宇土昌志
7. 鹿児島大学, 体育・健康科学実習, 前期, 福満博隆・高橋恭平・丸山敦夫・石原伸子・古村溝・大村一光・道向良・深田忠徳
8. 琉球大学, 運動・スポーツ科学演習, 前期, 増澤拓也